The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	中堅看護師の看護実践能力の発達過程とその影響要因に関する研究
Author(s)	下岡, ちえ
Citation	大阪大学, 2010, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/58163
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【2】

氏　　名	下　岡　ち　え（しも　おか　ち　え）
博士の専攻分野の名称	博　士（看護学）
学　位　記　番　号	第　２４１７９　号
学位授与年月日	平成22年9月22日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 医学系研究科保健学専攻
学　位　論　文　名	中堅看護師の看護実践能力の発達過程とその影響要因に関する研究
論文審査委員	（主査） 教　授　大野ゆう子 （副査） 教　授　阿曽　洋子　　教　授　井上　智子　　教　授　小笠原知枝

論文内容の要旨

【背景と目的】

本研究は，専門職として生涯にわたり発達することが望まれる看護実践能力の発達過程について探求するものである．この看護実践能力は順当に上昇していくわけではなく，ある一定レベルに到達した後には，その進歩の停滞するプラトー現象の時期をもち，この後に再び上昇すると考えている．これは Benner（1984）の発達理論とThorndike（1924）の学習理論に合致し，さらに，このプラトー現象は中堅看護師の時期に起きると仮定できる．

臨床経験年数を基準においた看護実践における役割の拡大という観点により，国内の多くの文献からは，中堅看護師の期間は5年から20年とみることができる．しかしながら，この期間は長く，該当者は約60万人と，その割合は看護師全体の半数を占める．したがって，この年代にある看護師の実践能力を向上させることが，看護ケアの質を上げるには重要となる．

そこで，本研究では，中堅看護師の看護実践能力の発達過程の特徴とその影響要因を明らかにすることを目的とした．具体的には，研究Ⅰでは，まず中堅看護師の看護実践能力の発達がプラトー現象にあることを検証し，次いで，このプラトー現象に関与する影響要因を明らかにする．研究Ⅱでは，研究Ⅰで示唆された影響要因の具体的な特徴を抽出する．最後に，これらの成果に基づいて，プラトー現象の長期化を予防する方策について考察する．

【方法と結果】

研究Ⅰ．中堅看護師の看護実践能力の発達過程におけるプラトー現象とその影響要因

Benner（1984）による達人看護師の実践から帰納的に導き出された7領域31項目を基に研究者が「看護実践能力」尺度を作成した．信頼性はクロンバックα係数（0.94）で，内容妥当性は臨床経験のある研究者5名の検討で確認した．

影響要因には，「専門職の自律性：日本版Pankratz Nursing Questionnaire (Pankratz&Pankratz,1974)」および「個人の自律性：独立・相互依存的自己理解尺度（木内,1995)」の２つの尺度を用い，「継続・基礎教育」には質問を設定し，自己評価による回答を求めた．

看護師316名を分析対象に，データの分析にはKruskal Wallisの検定，Mann-Whitneyの検定，Spearmanの順位相関係数，多重線型回帰分析を用いた．

その結果，経験年数が増加するにつれ，看護実践能力は有意（χ^2＝53.13，p=0.00：r=0.424，p=0.00）に高値を示すが，経験年数5年から20年の時期には変化を認めなかった（χ^2＝1.88，p=0.39：r=－0.109,p=0.227）．これにより看護実践能力は経験年数に関連して発達すること，また，その発達過程において中堅看護師の時期には15年にわたる長期的なプラトー現象が存在することを検証した．

中堅看護師の看護実践能力に影響する要因には，専門職の自律性（R^2＝0.140,β＝0.233,p=0.017）のみが抽出された．これによりプラトー現象に特に影響を与えているのは，専門職の自律性であることが明らかになった．

研究Ⅱ．中堅看護師の自律性の特徴

研究の主旨を病院の教育担当者に説明したうえで，選出された役職のない看護師にインタビューを実施し，5名が語った看護実践上の課題への対処過程における事例を分析対象とした．これらの事例から，対象者の判断や行動を「依存」と「自立」（Pankratz & Pankratz，1974）を用いて意味づけをし，専門職の自律性の特徴を抽出した．なお分析の妥当性は，対象者自身による分析内容の確認，中堅看護師の実践レベルを有する研究者2名での検討，質的研究法の経験者1名の助言，の3点で保証を図った．

その結果，中堅看護師は「高度な看護技術を習得する」（事例3）や「重症患者のケアを独りで判断する」（事例5）などメンバーとして一人前になることから，「リーダー役割を遂行する」（事例1）や「医師とケアの連携を図る」（事例2)，「リーダー役割を指導する」（事例4）などリーダーとして期待される役割の遂行までを課題と認識していた．そして，中堅看護師は副看護師長や看護師長への相談という対処過程により，これらの課題を解決していた．

これらの結果から，中堅看護師の課題は，看護チーム内での自己の立場や役割を認識し，看護の質を高めることにあった．そして，中堅看護師は看護管理者に判断や行動の責任を委ねる「依存」する部分を持ちながら，独りで判断し行動する「自立」へと向かう対処方法を得て，これらの課題を解決していた．

【総括】

研究Ⅰでは，看護実践能力の発達過程において，中堅看護師の時期にプラトー現象の存在を検証し，「専門職の自律性」がプラトー現象に関与する影響要因となることを明らかにした．研究Ⅱでは，看護管理者へ「依存」しながら「自立」へと向かう対処過程により，中堅看護師は自らの課題を解決していた．

以上から,看護実践能力の発達における特徴として，中堅看護師の時期にプラトー現象が生起しやすく，その発達を促進する中堅看護師の「専門職の自律性」には，看護管理者へ「依存」をしながら「自立」へと向かう特徴を持つこと，また，その方策として，看護管理者との相互作用の有用性が示唆された．

本研究では，中堅看護師の看護実践能力を発達させる専門職の自律性の特徴を明らかにしたが，今後は看護管理者を含む人的な環境要因との関連性を検討し，中堅看護師の継続教育の構築に役立てたいと考える．

論文審査の結果の要旨

本論文は， Thorndike（1924）の学習理論とBenner（1984）の発達理論を基盤として，中堅看護師の段階で生起するプラトー現象を短縮する方策を解明したものである．

研究1では，看護師316名の質問紙調査により，臨床経験5年程度までは年数が増加するにつれ，看護実践能力の自己評価は有意に向上を示したが，5年から20年の中堅看護師の時期になると変化が認められず，その後，再度上昇するという結果が示された．そして，プラトー現象に特に影響を与えているのは，職業人としての価値観，判断に基づいて行動を選択決定し，その行為に対し責任を持って行動する「専門職の自律性」であることを明らかにした．この研究の成果は高く評価され，日本看護研究学会平成20年度奨励賞を受けている．

研究2では，中堅看護師に対する質的研究に基づき，看護実践上の課題に対する対処能力を高めることによって，職業的判断を「依存」から「自立」できること，その方策として，看護管理者との対人的相互作用が有効であることを明らかにした．

以上の研究から，看護実践能力の発達の自己評価においては，中堅看護師の時期にプラトー現象が生起しやすく，その現象を短縮するためには，「専門職の自律性」を高める必要性が示唆された．

本論文は，看護師の実践能力の発達過程を実証的に解明するとともに，教育支援を実施する知見としては独創的かつ有益であり，今後の看護ケアの質的向上に貢献するものである．よって，博士（看護学）の学位に値するものと評価した．